

ら、要所は図書館、大学、官公署に備え付けられた雑誌のコピーだけで間に合う。

1は、きりつめた住宅事情の下にある者は切実に感ずることで、要するにほとんど読みもしない雑誌がたまる一方なのです。バック・ナンバーが貴重な財産となるというような話は過去の時代のことで、現在では古本屋でさえ見むきもしません。

外国の学会にたくさん入っておくことは、大へん金のかかることでもあるので、多くの研究者は、外国誌の場合は2のような形で情報を集めている人が多いでしょう。何しろ読み手は1人、書き手はあまたなのですから、情報を整理せぬ限り、動きがとれなくなります。情報の整理には、カード式が良いなどよく言われましたが、そのカードですら、5年、10年たてば洪水となって

いるのが現代ではないでしょうか。

ここでも、極端な場合を考えてみましょう。学会は、学会運営上のアナウンスメントの載ったニュース以外は会員に送らない。報文や総会報告は、アブストラクトをつけた目次をニュースに添えて送り、会員がそれぞれの目的に応じてオーダーする。形式としては、スウェーデンの“Ambio”などに良いお手本があり、日本では、機械学会がこれに似た試みをしています。そうした場合、学会費の用途はどうなるか、いずれにせよ、会費の大部分が学会誌の刊行に充てられているような時代は、すでに終わりつつあるように思われます。これは、他の学会でもかかえている大きな悩みでもありますが、気象学会でも、他の学会に先駆け、モデル・ケースを作り出すようなことを考えるべきではないでしょうか。

第19期 第4回理事会議事録

日時 昭和52年10月4日 18:15~19:35.

場所 北海道厚生年金会館

出席者 岸保、小平、朝倉、神山、河村、門脇、杉本、立平、各常任理事
孫野、伊藤、田中、清水、山元、沢田、坂上、各理事

議題

1. 名簿作成について

理事長から常任理事会での経緯について補足説明があり、討議に入った。

第1案 別冊とし希望者を募って有料で頒布する。

第2案 別冊とし会員に無料で頒布する。この場合、印刷費、送料費共で100万円は必要となる。

第3案 本誌の頁数を名簿の分より多くする。

これに対し、孫野理事からは、従来どおりの方法で作って欲しいとの発言が、ほかの理事からは、今回だけは従来どおりとして次回からは予約をとって有料とし、その場合は電話番号も入れて欲しい、などの発言があった。討議の結果、会員名簿より本誌を厚くする（郵便法違反とならぬためのもの）ことは、さして無理はないと思うし、名簿自体も活字を小さくするとか、スタイルを考慮すれば問題はな

く、経費についてもこの方法（合本）でやれば50万~60万円程度で済む筈なので、会員相互連絡の手段として最も良いと考えられるとする第3案の河村理事の意見が賛成多数を占め、従来どおりの合本方式とすることとなった。

2. 学会の財政問題

杉本理事から昭和53年度予算案（第1次）について説明が行なわれた。

(1) 会費は、8月31日現在の会員数を基礎として算出したが前年より約100万円増となる。

(2) 雑誌、図書頒布は、約130万円の増となる。

(3) 文部省助成金は、28万円の増となる。

(4) 支出では、印刷編集費は、物価高の影響を考慮して印刷費10%アップとして約440万円の増となる。人件費は、ベースアップを考慮し7%アップとした。その他は、昨年なみとし計上した。

昭和50年度に比べ繰越金の多い原因について、元来50年度収入となるべき昭和50年度発行による研究ノート代金と、昭和50年、51年度会費未納者分の大半が徴収されたことによる額である、との説明が付言された。

財政問題については、次の事項が討議された。

(1) 会費の値上げについて

理事長および杉本理事から、会費だけの収入を考えると赤字であり、研究ノートの収入を入れてバランスがとれている現状についての補足説明があり、理論的には会費の値上げを考慮しなければならないとの発言があった。これに対し、神山理事からは、会計上問題がなければ据置いても良いのではないかと、孫野理事からも、同様の希望が述べられた。

これと関連して、気象集誌の投稿料についても著者への支払いの方法および額の適正な値などについて議論が続出し、結局、会費値上げについては結論が出ず、常任理事会にはかかることとなった。

(2) 支部交付金の増額について

杉本理事から、人当割りを350円から500円としてはとの提案説明があり、これに対して、孫野理事より、その程度では値上げにならぬとの強い反論が出され、他の理事からも増額の希望が出され、基本額の増額も含めて常任理事会で原案を作ることで了承された。

(3) 学会賞応用部門賞の設置とその値上げについ

て。

沢田理事より、理事長からの再度にわたる文書連絡の内容の照会と、現在同理事の手元に集められている各委員からの意見の詳細な報告があり、種々活発な意見の交換が行なわれた。学会賞を増やす問題、すなわち、応用部門を設ける問題についても討議が行なわれたが結論が出ず、今後選考委員会で煮つめて、次期学会賞を決める時までに決めて貰うこととし、金額についても10万円程度にして欲しいとの提案もあり、藤原賞とのかねあいもあるのでその点を考慮して検討して欲しい旨の発言が理事長から出され、了承された。

(3) 希望部門の分類の改正(案)について

天気24巻8号(494 p)に「ご意見をお寄せ下さい」と掲載してあるが、これについて朝倉理事が補足説明を行ない、本年の春の大会までに意見があれば出していただきたい旨強調した。

承認事項：山田哲二ほか7名の入会を承認